

## 野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)講義資料

この講義資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Webでの掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

---

### 2011年度 野生鳥獣保護管理技術者育成研修会(カワウ)

対 象: 都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他  
カワウの保護管理、調査、被害防除に関わる者

開 催 日: 2011年11月28日(月)～11月30日(水) 2泊3日

場 所: 愛知県東大手庁舎 407 会議室

講師と科目: 加藤ななえ(カワウの生態)

: 高木憲太郎(特定鳥獣保護管理計画とカワウの広域管理について)

: 亀田佳代子・石田朗(カワウ被害軽減のためのコロニー・ねぐら管理とは)

: 山本麻希(新潟県におけるねぐら除去事例)

: 坪井潤一(ねぐら除去手法について)

: 加藤ななえ(ねぐらやコロニーにおけるカワウの個体数調査方法)

: 加藤ななえ(東京都浜離宮庭園におけるねぐら除去事例)

: 藍憲一郎(夷隅川におけるねぐら除去事例)

: 坪井潤一(ねぐら管理の進め方)

野 外 実 習: 弥富野鳥園(愛知県) ねぐら除去方法の実習とねぐら入りカウント

現地説明者:(財)愛知公園協会

: 山梨県水産技術センター

: NPO 法人バードリサーチ

---

## 夷隅川におけるねぐら除去事例

千葉県水産総合研究センター 内水面水産研究所

藍 憲一郎

千葉県では約7,000羽のカワウが確認され<sup>\*</sup>、関東でも有数のカワウの生息県である。県内には2010年3月現在、22か所の罫があり<sup>\*</sup>、就罫数調査を3、7、12月に行っている。また、飛来状況を把握するため、県内の4つの漁協では毎月1回、早朝に河川等で観察されるカワウを計数している。罫の就罫数には、季節変化が認められ、行徳鳥獣保護区や小櫃川河口の罫では冬季（12月）に少なく、印旛沼や夷隅川の罫では冬季（12月）に多くなっている。

夷隅川の上流では、遊漁者によるアユ釣りが行われ、夷隅川漁業協同組合がニジマス等の管理釣り場を営んでいるが、カワウによる食害を防ぐため、飛来数を減少させることが喫緊の課題であった。当漁協が2007年5～12月にかけて河口から約6kmにある罫のカワウを追い払ったところ、その罫から約4km離れた農業用堰に罫が移り、夷隅川上流への飛来数が減少した。しかし、2008年11月には再び元の罫を利用するようになり、それ以降、飛来数が増加した（下記表参照）。

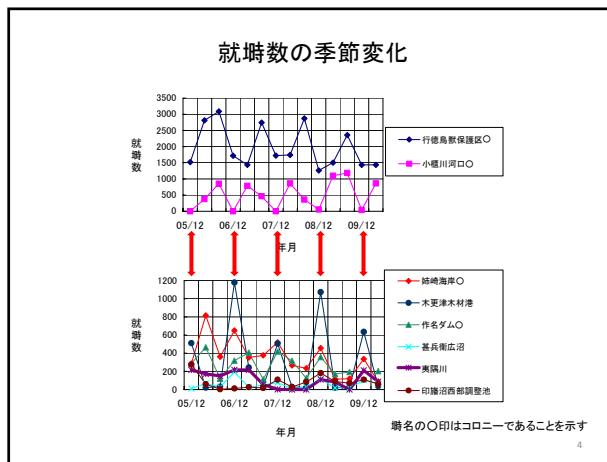
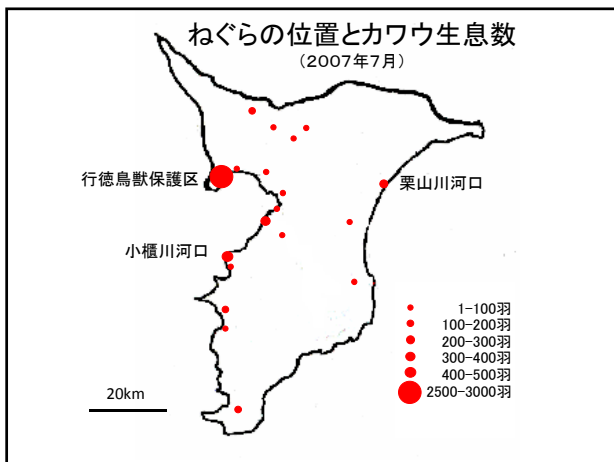
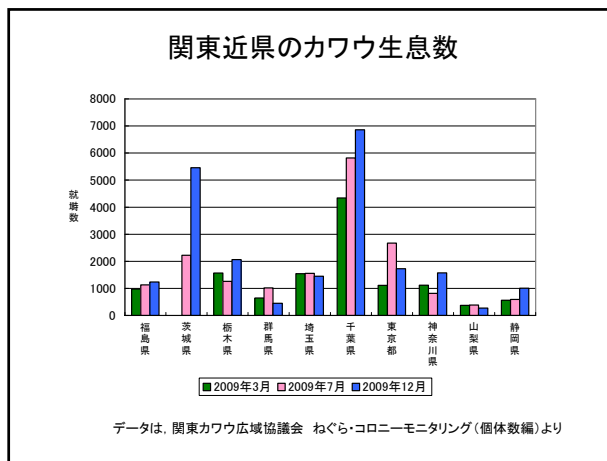
このことから、罫のカワウ追い払いは、飛来数の減少につながる有効な対策ではあるが、罫の利用を防ぐには、継続した追い払いが必要と考えられた。

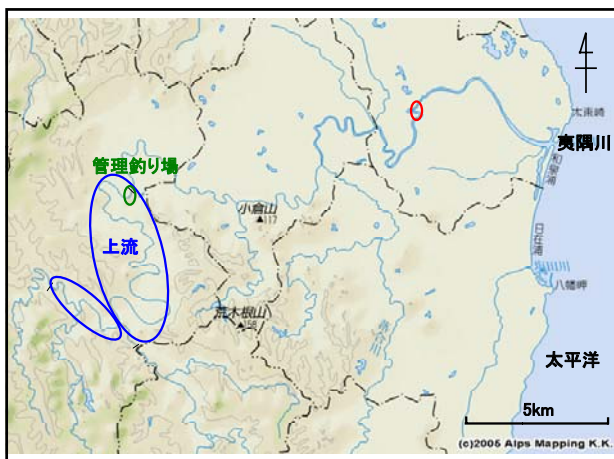
※：関東カワウ広域協議会 ねぐら・コロニーモニタリング（個体数編）より引用

表 罫のカワウ追い払い経過

日付	追い払い行為 <sup>*</sup>	就罫数
2007年3月6日		216羽
5月4日	午後1時から夕方まで銃(50発)使用	
5月15日	午後1時から夕方まで銃使用	
7月18日		55羽
7月21日	午後1時から夕方まで銃使用	
9月8日	午後1時から銃(15発)使用	
9月15日	午後1時から銃使用	
11月26日	午後1時から花火使用	
12月13日		2羽
12月19日	午後1時から銃使用	
2008年3月5日		0羽
7月10日		0羽
12月19日		112羽

\* 夷隅川漁協の資料を元に取りまとめた





### 罾の追い払い経過

日付	追い払い行為*	罾利用数
2007年3月6日		216羽
5月4日	午後1時から夕方まで銃(50発)使用	
5月15日	午後1時から夕方まで銃使用	
7月18日		55羽
7月21日	午後1時から夕方まで銃使用	
9月8日	午後1時から銃(15発)使用	
9月15日	午後1時から銃使用	
11月26日	午後1時から花火使用	
12月13日		2羽
12月19日	午後1時から銃使用	
2008年3月5日		0羽
7月10日		0羽

\* 夷隅川漁協の資料を元に取りまとめた

